

平成25年度 病院事業会計予算概要

平成25年度の病院事業会計予算は、単年度収支均衡はもちろんのこと、昨年度同様、当院の特色ある取り組みに力を入れるとともに、医療サービス提供の中心となる看護師のスキルアップのための研修事業やリハビリテーションスタッフの体制を強化するなど将来を見据えた編成を行うとともに、老朽化が著しい高度医療器械の更新を行い、地域の医療水準の維持向上も目指すものとなりました。

まず、収益的収支において、医師の体制は平成24年度末の水準を維持することができるとともに、回復期リハビリ病棟の安定稼働などで、診療収益は本院・診療所合わせて45億1千万円を予定し、事業収益合計では55億1千1百万円を予定しています。

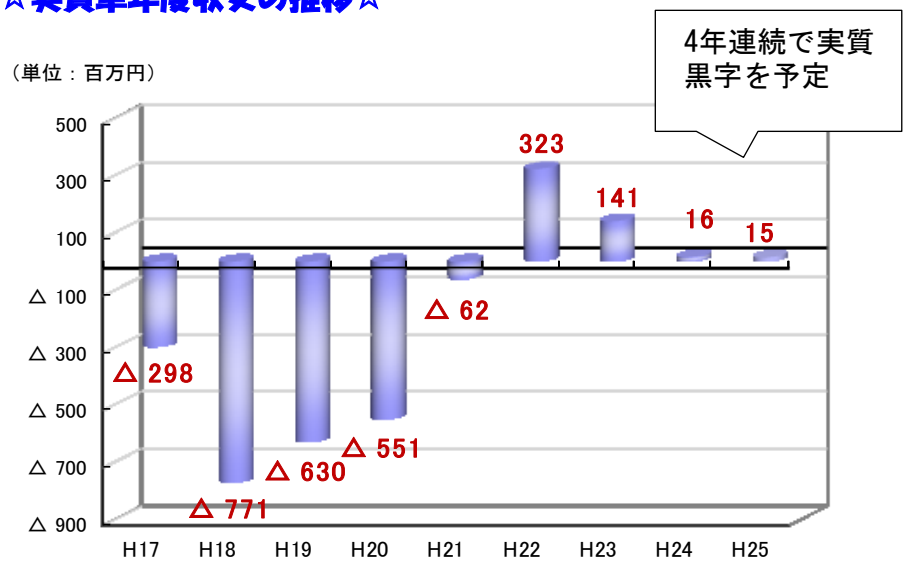
一方、費用につきましては、医療スタッフ増員など費用の増要因があるものの、改革プランに沿った経費節減を継続して行い、事業費用合計では平成24年度の最終予算と比べると、9千9百万円の減額となる56億7百万円を予定しています。

この結果、損益勘定収支（純損益）は平成24年度最終予算からは7千7百万円ほど改善されますが、9千8百万円の純損失となります。

なお、資本的収支において借金の返済などで4億6千4百万円の収支不足が生じていますが、損益勘定留保資金※で補てんしますので、単年度収支は1千5百万円の黒字となります。

※損益勘定留保資金 減価償却費や固定資産の除却費など費用として予算計上されながら、現金の支出を必要としないものの合計額のことです。

☆実質単年度収支の推移☆



☆実質収支比較☆

区 分	H25 予 算	H24 最 終 予 算	増 減
事業収益計 ①	5,502.3	5,521.9	△ 19.6
事業費用計 ②	5,600.5	5,696.6	△ 96.1
純損益（△純損失）③	△ 98.2	△ 174.7	76.5
① - ②			
損益勘定留保資金 ④	576.8	615.6	△ 38.8
資本的収支差引 ⑤	△ 464.1	△ 424.9	△ 39.2
単年度収支 ⑥			
③ + ④ + ⑤	14.5	16.0	△ 1.5

※事業収益及び費用は税抜きで表示しています。

1. 収益的収入の状況

病院事業の収入は、入院料や外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。

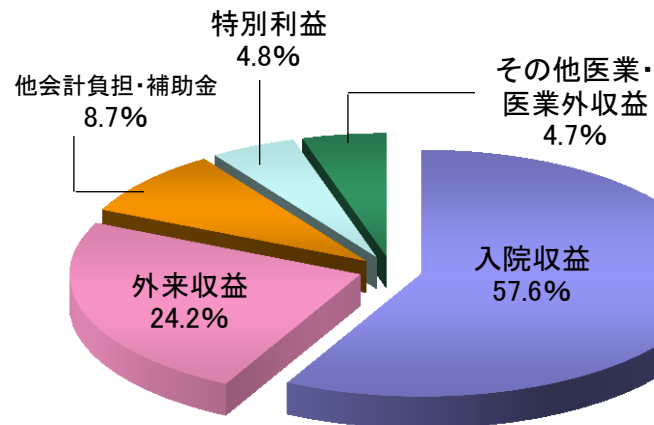
※税込みで表示

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 25 年 度		平成 24 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	最終予算額 C		
入院収益	入院料など	3,176,265	57.6	3,310,777	3,130,040	46,225	1.5
外来収益	本院及び診療所の外来診療料など	1,333,873	24.2	1,324,352	1,365,762	△ 31,889	△ 2.3
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金（繰入金）	481,334	8.7	487,791	487,791	△ 6,457	△ 1.3
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	204,844	3.7	220,475	220,475	△ 15,631	△ 7.1
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	51,832	1.0	53,875	63,875	△ 12,043	△ 18.9
特別利益	資産の売却益や特例債元金償還支援など	262,418	4.8	260,589	264,998	△ 2,580	△ 1.0
合 計		5,510,566	100.0	5,657,859	5,532,941	△ 22,375	△ 0.4

前年度最終予算額と比較して、固定医の異動が少なく診療体制もほぼ維持することができることと、回復期リハビリ病棟の安定稼働を予定していることから、入院・外来収益は1千4百万円の増収を予定しています。
また、そのほかの収益につきましては留萌市からの繰入金をはじめ減収を見込んでいますので、収益的収入の合計は、前年度最終予算額と比較して、2千2百万円減の55億1千1百万円を予定しています。

☆収益的収入の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

入院収益	回復期リハビリ病棟の安定稼働など 46,225増収
外来収益	利用者減 △2,134人 31,889減収 (泌尿器科医師の減 など)
他会計負担・補助金	留萌市からの繰入金 6,457減収 (企業債利息負担分の減 など)
その他医業収益	お産関係等 15,631の減収
医業外収益	保険金収入の減(10,000の減収) など
特別利益	固定資産売却益など 2,580減収

2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を営むために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

※税込みで表示

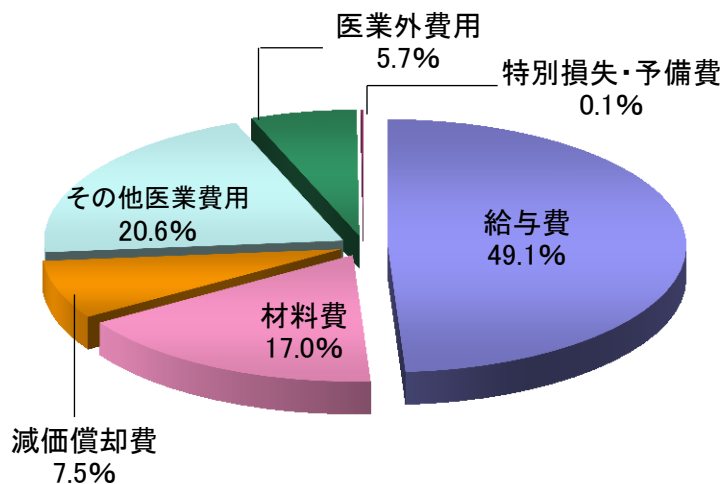
(単位：千円、%)

区 分	内 容	平成 25 年 度		平成 24 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当 初 予 算 額 B	最 終 予 算 額 C		
給 与 費	職員の給料・手当など	2,750,720	49.1	2,800,294	2,735,212	15,508	0.6
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	951,469	17.0	1,025,127	980,127	△ 28,658	△ 2.9
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	420,872	7.5	408,515	437,788	△ 16,916	△ 3.9
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,154,702	20.6	1,149,420	1,162,452	△ 7,750	△ 0.7
医業外費用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	321,480	5.7	376,463	374,976	△ 53,496	△ 14.3
特別損失	貸付金償還免除費、医療費収入不納欠損金など	5,128	0.1	3,721	12,616	△ 7,488	△ 59.4
予 備 費		3,000	0.0	3,000	3,000	0	0.0
合 計		5,607,371	100.0	5,766,540	5,706,171	△ 98,800	△ 1.7

前年度最終予算額と比較して、看護職やリハビリスタッフの増員などにより、給与費で1千6百万円の増加を予定していますが、そのほかの費用につきましては、材料費が2千9百万円、減価償却費が1千7百万円減少し、企業債利子や繰延勘定償却の減など医業外費用で5千3百万円の減少を予定しています。

これにより収益的支出の合計では、前年度最終予算額と比較して、9千9百万円減の56億7百万円を予定しています。

☆収益的支出の内訳☆



☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

給 与 費	医療スタッフの増員等による給与費の増 15,508 (看護職、リハビリ職)
材 料 費	在庫見直しなど材料費の抑制による減 △28,658
減 価 償 却 費	構築物償却費の減 △16,916
その他医業費用	損害賠償金の減(10,000の減) など
医 業 外 費 用	企業債利子の減 △9,020 繰延勘定償却費の減 △41,585 など
特 別 損 失	過年度損益修正損の減 △8,895 など

3. 資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勸奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成25年度		平成24年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	最終予算額C		
企業債	企業債(借入金)	189,500	35.2	50,000	50,000	139,500	279.0
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金(繰入金)	338,581	62.9	318,978	318,978	19,603	6.1
その他	資産購入補助金、固定資産売却代金、貸付金償還金	10,504	1.9	3	695	9,809	1,411.4
資本的収入合計		538,585	100.0	368,981	369,673	168,912	45.7

☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内容	平成25年度		平成24年度		比較増減 D(A-C)	増減率 D/C
		予算額A	構成比	当初予算額B	最終予算額C		
建設改良費	医療器械の購入・施設整備など	205,418	20.5	54,418	54,418	151,000	277.5
企業債償還金	企業債の元金償還金	765,677	76.4	722,222	722,222	43,455	6.0
その他	修学資金・研究資金貸付金など	31,640	3.1	27,590	17,920	13,720	76.6
資本的支出合計		1,002,735	100.0	804,230	794,560	208,175	26.2
収支差引		△464,150	-	△435,249	△424,887	△39,263	9.2

前年度最終予算額と比較して、これまでの医療器械更新事業(事業費5千万円)に加え、老朽化した高度医療器械を企業債(借入金)や国・道補助金を財源とした更新事業(MRI、血管撮影装置、事業費1億5千万円)を行うため、資本的収入・支出はともに大幅な増額を予定しています。また、看護師確保対策として取り組んでいる修学資金等の貸付金は、修学資金の貸付予定者を22人(新規で10人)とするとともに、看護師志望者には、これまでの月額5万円から10万円に金額を倍増し、当院就職後の研究資金の貸付予定者7人分を含めまして3千1百万円を予定しています。

これにより、資本的収支差引は、4億6千4百万円の不足が見込まれます。

※この収支不足額は、損益勘定留保資金などで補てんします。

☆主な増減内訳☆

<収益>

(単位：千円)

企業債	医療器械等整備事業債の増	139,500
他会計出資・負担・補助金	企業債償還分繰入金の増など	19,603
その他	設備整備にかかる国・道補助金の増	10,500 など

☆主な増減内訳☆

<費用>

(単位：千円)

建設改良費	高度医療器械更新事業の増	150,000 など
企業債償還金	建設改良事業債元金償還の増	41,628
	公立病院特例債元金償還の増	1,827
その他	修学資金等貸付金の増	10,320
	研究資金貸付金の増	3,400

4. 企業債残高及び元利償還金の状況

企業債とは、建設改良事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械やシステムの整備など)を行うにあたり、資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

病院事業の元利償還(返済)金は、病院建設事業(本体工事や周辺整備、移転のために更新した医療器械)のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度には8億3千万円にまで上昇、一端ピークを迎えました。その後、医療器械分の返済の一部が終了しましたので、平成19、20年度は6億円程度にまで下がりましたが、平成20年度に医師不足が理由で発生した赤字を分割返済する特別な企業債(公立病院特例債 18億2千4百万円)を発行したことにより残高が増加し、返済額も平成21年度からは8億6千万円に上昇しています。(公立病院特例債の元利償還金は、全額市からの繰入金で返済しています。)

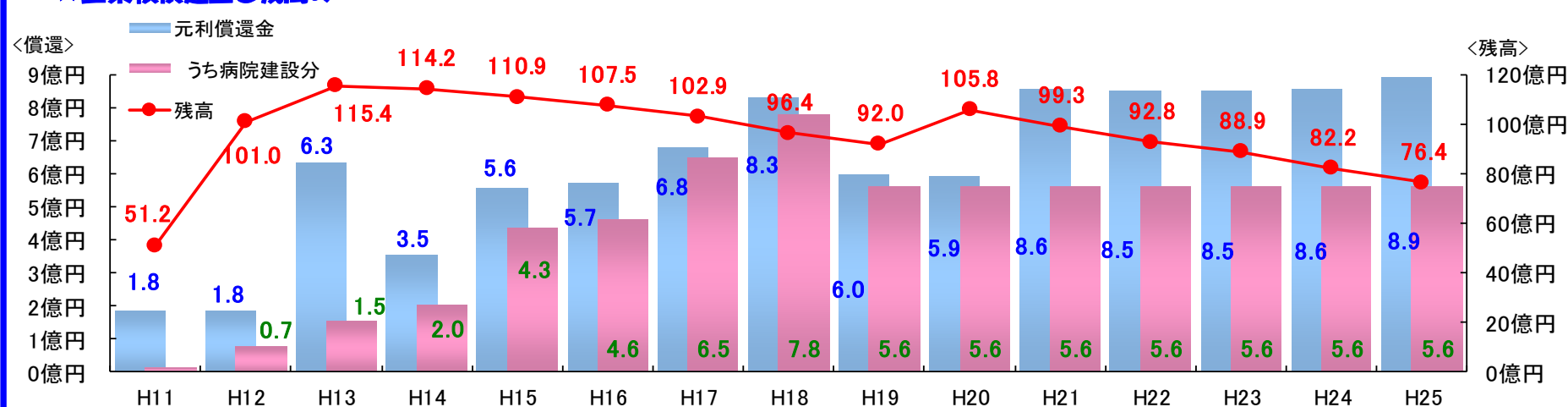
平成25年度には老朽化した高度医療器械などを更新するために1億9千万円を借り入れますが、平成26年度以降も必要な医療器械等について病院内で精査し、適切な更新・導入を行います。

☆企業債償還金及び残高の推移☆

(単位：百万円)

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
元 金	138	138	462	172	377	394	504	659	436	440	698	700	707	722	766
利 子	47	47	170	182	181	178	174	169	161	154	160	151	143	135	126
元 利 償 還 金	185	185	633	355	558	572	678	827	597	595	858	851	850	857	891
うち病院建設分	14	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563	563	563	563	563
うち公立病院特例債											267	268	268	268	268
残 高	5,124	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,927	9,276	8,892	8,220	7,644
特例債除く残高										8,759	8,357	7,964	7,839	7,427	7,113

☆企業債償還金と残高の推移☆



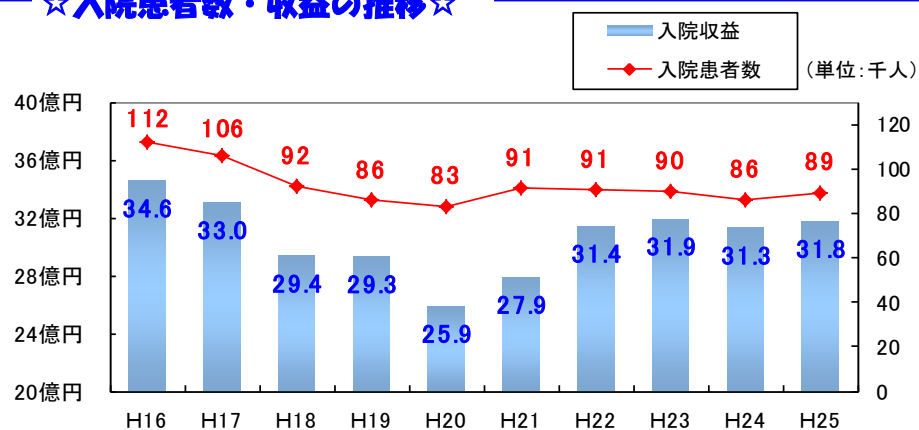
※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

5. 利用者数及び入院・外来収益の推移

当院の利用者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始め、毎年度減少し続けていましたが、平成21年度には皮膚科、脳神経外科で固定医を確保したことで、入院・外来ともに利用者は増加に転じました。しかし、その後も厳しい状況は毎年度続き、利用者数はなかなか増加せずほぼ横ばいで推移しています。

これまでの総合内科医養成研修診療所の開設や勤務医の負担を軽減するための事務作業補助体制の強化などの医師確保活動に加え、平成25年度からは、医育大学の臨床実習施設として学生を受け入れ、地域医療の重要性を学んでもらうなど、医師確保につながるようさまざまな取り組みを全力を挙げて進めます。

☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器内科入院診療休止、循環器内科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器内科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開
脳神経外科入院診療拡大
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の入院診療再開
皮膚科、泌尿器科入院診療休止
- ・平成23年度 泌尿器科入院診療再開
12月より療養病棟を回復期リハビリ病棟に（35床）
- ・平成24年度 回復期リハビリ病棟本格稼働
7月より泌尿器科入院診療休止

☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器内科、呼吸器内科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働
- ・平成21年度 脳神経外科診療体制拡充
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の診療体制拡充
皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小
2月より東雲診療所開設、一般外来（午後）開始
- ・平成23年度 泌尿器科通常診療再開
- ・平成24年度 5月より東雲診療所での午前一般外来を開始
7月より泌尿器科の診療体制縮小

6. 予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成26年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

※資産の部の未収金が約9億円もありますが、この中には月遅れで入金される保険者(社会保険や国民健康保険など)からの収益や道からの補助金などが含まれていますので、個人負担分の未収金は1億5千万円程度となっています。

☆資産の部☆

(単位：千円)

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	519,593
ロ 建物	4,595,242
ハ 構築物	39,903
ニ 器械及び備品	653,025
ホ 車両	439
有形固定資産合計	5,808,202
(2) 無形固定資産	
イ 電話加入権	1,858
無形固定資産合計	1,858
(3) 投資	
イ 看護師修学資金貸付金	83,668
ロ 看護師研究資金貸付金	17,824
投資合計	101,492
固定資産合計	5,911,552
2 流動資産	
(1) 現金預金	142,500
(2) 未収金	879,016
(3) 貯蔵品	36,426
流動資産合計	1,057,942
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	136,417
(2) 控除対象外消費税額	183,185
繰延勘定合計	319,602

資産合計 7,289,096

☆負債の部☆

区分	金額
4 固定負債	
(1) 公立病院特例債	530,366
(2) その他固定負債	1,065
固定負債合計	531,431
5 流動負債	
(1) 一時借入金	250,000
(2) 未払金	390,440
(3) 預り金	21,410
流動負債合計	661,850

☆資本の部☆

区分	金額
6 資本金	
(1) 自己資本	
イ 固有資本	1,793
ロ 繰入資本	4,338,981
ハ 組入資本	16,850
自己資本合計	4,357,624
(2) 借入資本	
イ 企業債	7,113,170
借入資本合計	7,113,170
資本金合計	11,470,794
7 剰余金	
(1) 資本剰余金	
イ 寄附金	7,402
ロ 国道補助金	644,999
ハ 他会計補助負担金	2,970,152
ニ 受贈財産評価額	42,729
資本剰余金合計	3,665,282
(2) 欠損	
イ 当年度未処理欠損金	9,040,261
欠損金合計	9,040,261
剰余金合計	△ 5,374,979

負債・資本合計 7,289,096

7. 予定キャッシュフロー計算書（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えてこない現金の流れを知ることができます。

(単位：千円)

☆①業務活動によるCF☆

区分	金額
本院医業収益	4,020,457
診療所医業収益	46,583
本院医業費用	△ 4,018,662
診療所医業費用	△ 61,070
薬品仕入支出	△ 525,127
小計	△ 537,819
医業外収益	415,851
医業外費用	△ 36,528
小計	379,323
特別利益収入	2
特別損失支出	△ 1
小計	1
過年度未収金収入	764,461
過年度未払金支出	△ 418,143
小計	346,318
預り金その他収入	750,000
預り金戻出その他支出	△ 750,000
小計	0
業務活動によるキャッシュフロー	187,823

☆③財務活動によるCF☆

区分	金額
短期借入(一時借入金)による収入	2,000,000
短期借入(一時借入金)の返済による支出	△ 2,000,000
長期借入(企業債)による収入	189,500
長期借入(企業債)の返済による支出	△ 765,677
有形固定資産取得に充てる補助金等	1
他会計出資金(4条分)	325,270
他会計負担金(4条分)	13,311
他会計補助金(特別利益)	262,416
財務活動によるキャッシュフロー	24,821

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = △ 24,411

☆⑤現金等の期首残高☆ 166,911

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 142,500

☆②投資活動によるCF☆

区分	金額
有形固定資産の取得による支出	△ 206,418
有形固定資産の売却による収入	1
修学資金貸付金	△ 30,640
修学資金貸付金償還金	2
投資活動によるキャッシュフロー	△ 237,055

- ・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金
- ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など
- ・財務活動によるCF: 借入金や市の繰入など外部からの資金調達

※平成25年度の病院事業は、高度医療器械の更新事業のため投資活動が多額で、業務活動での黒字でマイナス分をすべて補てんすることができず、現金が目減りしています。また、市からの支援を受けながら借入金の返済をしていることが分かります。